849
55

談入

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

地震後世

俗語之種

初編之二

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用

849
55

立春

天の恵地の恵ともに
生きものをやしなふ
春のまるやか

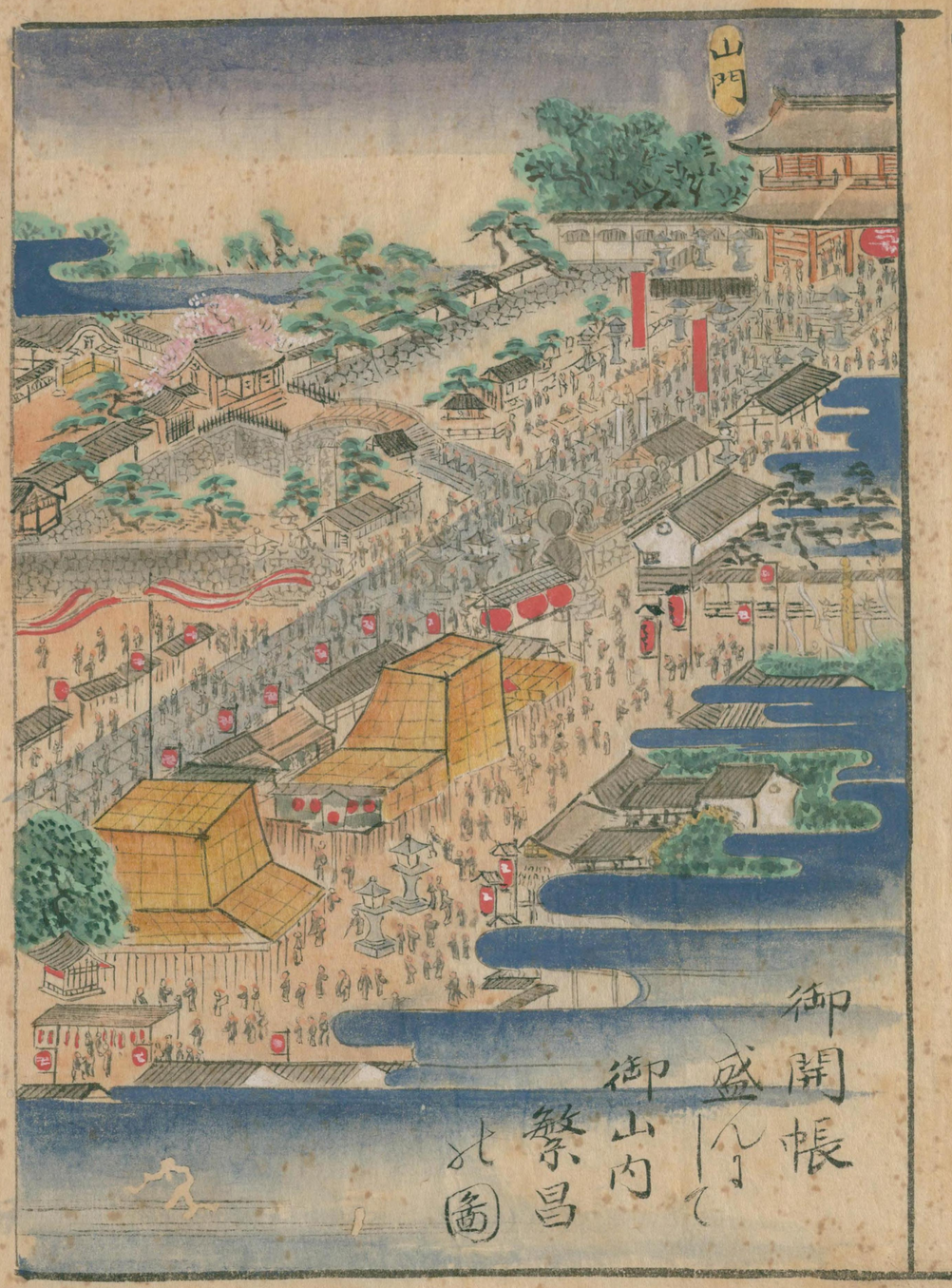
春一英画

徐ろに旦出度年玉を超若ゐ波の音を
常盤なる松の響く幾千歳深神楯ゐ栃ゐ
福壽草毛苔ゲ、うち掛ひたる此春を
迎ふるの外出書初ゐ筆始ゐ幾千歳照一ゐ慶旦出度
数くの枝のなるゐと万歳ゐ梅
幾千歳斗包み屠蘇ゐ酒ゐ肴ゐ梅
浪ゲ船の音ゐ長閑ゐ春ゐ風ゐと
七草薺すゞしろ御慶ゐ初若菜
迫なのもと過ゲ去浪ゲ閑幾とびゐ人の

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

なけまたは白の花柳の糸を
まで風も弱生外郎包も通行向ふ
も秋ぞり行きもの一方面向ふの色通家ゟ
たかひ用ゐ紙まで軒残無色にて客毎ゟ
立連ゐたるうちゟ紅緑つゝ立ち
と卍の紋一枚ゟ通ひ残ゟ見世ゟ
通家残ゟ座ゟ紅葉の色ゟ
杏ゟ林一ゟ入かゟ久習ゝ歩行て横丁
路次ゟたり見ゟ見ゟ一
やうゟて秋冬風ゟ紅葉の錦残

かゟゟかうゟ叩ゝ哥附奉納の幟ゟ
狸ゝ縅の羅宵松残ゟ
線残ゟ梓のうゝゟ
形ひ多酒肴ゝ大金銀の玉まゝ留茶
幡吹流一ゟ風ゝ鹿き
風残ゟも声絵額屋ゟ
ゟまゟかゟんゟ旅人残ゟ
残歩行ゝ御本堂ゟ左右ゟ見世店
残数十軒残ゟ通小買物ゟ
或ゟ水ゟ千歳ゟ菓ゟのたゝ



国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

繪圖画流行うた亦可
もなくて拡寛を吟じむたるものを二八の
そはよりも細きこにやまも久多の禁の物
細細の細つまる多の頃へうけ銭をて演舎を
高き銭をす銭をてんもう葱菓子等の
座茶店をぐ打ちんよりはまんの青色と
芸まてやかる声くる容の是銭面ぬる
志ほくと四丁多今の鋪石左右二行ず新銭
為く一山売徒の門前をる物を祝石左右二行ず新銭
基ちやうちん一枚一建為く小御堂ず八軒を有

志乱く掛るく樫噂銭輝を床久毎の
重通てまを曲馬怪業芸在銭をめ面
ぬ久毎物の小屋数二十有余建連を表ず
なる名代看板を浮世絵のよて銭ぬて彩
色に筆銭皆一大入ちいまのちやう
ちん小大除のおに板多く掛久物を本戸
銭おー今び笛古数の音鼻銭つう後
三味線の音毛よ久口上ことはとうは銭は
えそやたうにちや角てう
ぬるこをほんをとる安の表と

雪輪乱菊桜草吉やまた大谷摸松我十
幅ヲ二ツ三ツ宛添て仕まを許奇妙
葉我工風一鐘楼ヲ画我ヲ田我掛ケ其我ヲたと家ま
おるく拙筆ふかくに千万のり
おまそを添ヲ寄附奉納の其
品〳〵迄五近郷ヲ始ヲじとの我と序
我ヲそ我ヲそ京大坂千人講中ヲそ
会仏御花溝中ヲそ奉納物善ヲ我
書をだ初ヲたヲ変我〳〵と建善日も

そうして思底我被翰石鷹き祖ヲかーヲそ
口中一切の呉歯鷹お、来四文銭我噛神ヲ
利口をもの善我者ヲ奪ひ七ヲとうかしい
治芽ヲ口中我間一声ヲ鳴ヲいとそを
一味〳〵ヲ切我志やをくて延のヲヲ
良妙音吉升の次おを招ヲ世て
次口みうり一責ト吉そよ卦ヲヲ
我捕ヲてそヲ我いひこ國この甘滝山
川白酒のたそもヲ一ヲ寄の善居ハ流行の
ヲ升呉滝川亂声ヲ野夢ヲそ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

西山へ傾きて入相の鐘ぜんと
つく寺々の数多きにおどろ
てそこより我うちへ帰らんに
に覚かるる富小屋のつらなり
群集のくちやうちんそこ
ふうの里辺きの白書とい
もんの印そこより我勢多
耳目我勢一西そこを東へ歩行
北だまちだかそこより
ものそ

旧例ぞて三日なる申ぞ刻比ぞ
表御門へ出車あつて
御車まで参上
御印文化御室会釈
鉾行列ぞ一
あり警固の御庭侍
後我勢ぞ
せは一山ぞ
迎ぞ
還ぞ

生死造奉
次第善
御別當權僧正
是日 光御門
金銀の合物
更衣
前

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

幸一度ふまゝる縁ゝ
幼年ゟ此ゟ今此ゟ開帳まで高野ゟ
四度ゟおゟ度ゟ町ゟ
奉納寄附の志ゟ
いてゟ百ゟ連ゟ
ゟも数ゟ一ゟ
過来ゟて仏ゟ
花車ゟ風流ゟ専ゟ
絶ゟ今ゟ大ゟ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

と云ふ説中説得秘書書画の類小道具古代の名器微塵庫とうつて一物一多き山戌なるを可惜亦驚怖を發まる市街年中行事并社佛閣縁日祭禮賑ふ物多一也いふの勢中六月十三四の雨先祖の例として市町戌東西南北の經義まる近傍の招き祝戌る事一の可有ふ町境町

おまて其市神の祭日夜見世の市ハ昨今事已もまる云ふ分ちまて往行ふ日ふ後編まて一日ふ豊年遠を爲一日ふ祭花歌乐の満足ふる事一幼君小兒也いふ時已戌常ふ一六萬五千の戌積日清画まる前立本当御開帳の時ふ也ふ一事艶ことふる爲一吉凶ふ一事屋旅屋更ふ日新ふ地面戌廣ふ一部化戌補理軒戌而

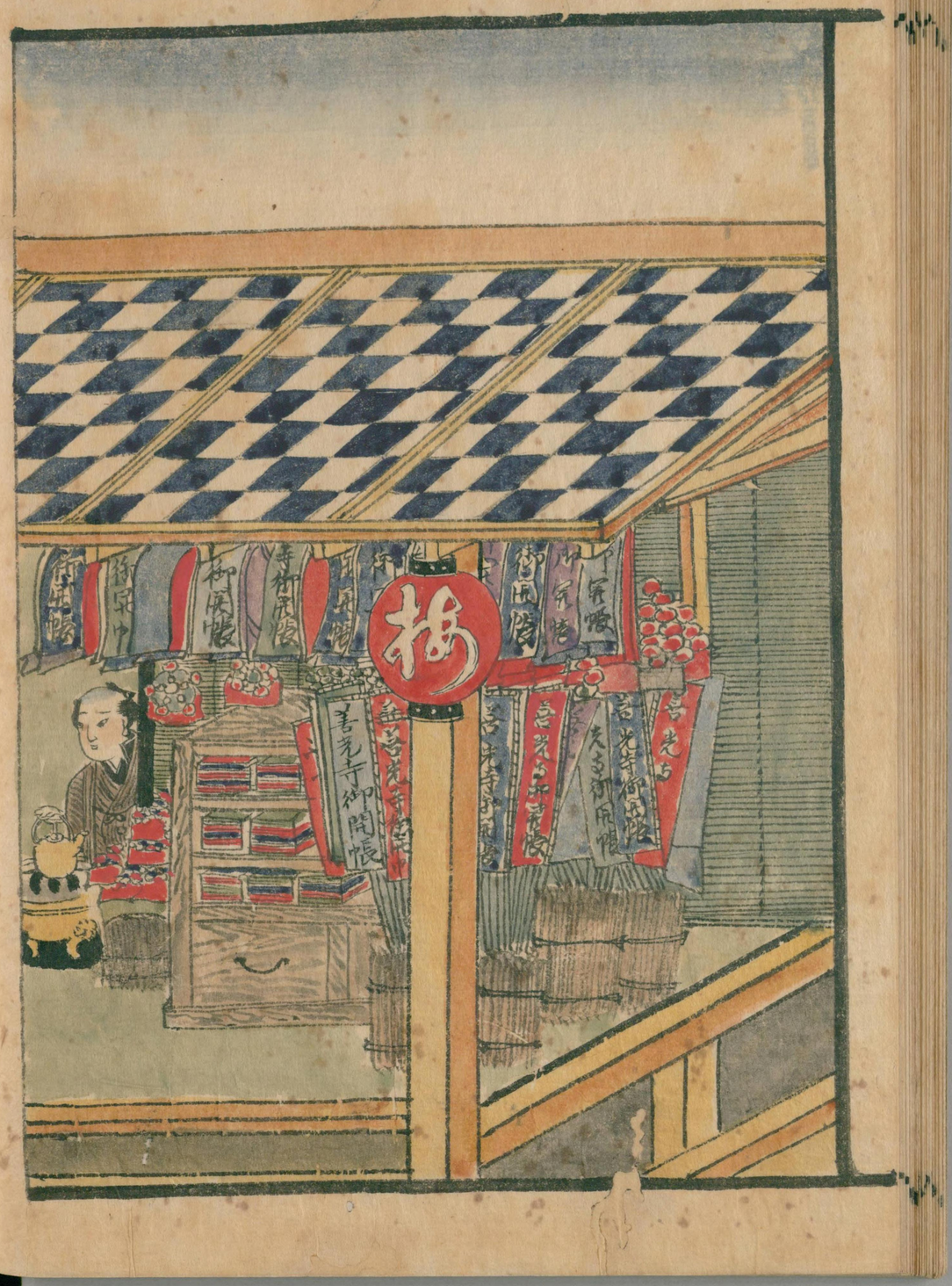
国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

利潤我ものとせんと企て
内職出店許等我儘勝手も又
運拙くして容易に
二階我ものとなす能はざる
遂るを恨み　御田包そと逃来の者人
まち物々を多く平の質素我ものと
なす能はざるの
糸漬我ものとなす能はざるの
酒給菜漬我ものとなす能はざるの
又世この如き我ものの心我儘勝手
つまるところ　つまるところ　いかなる
訴の苦労も金所るまでして
好きまるまで我儘
おもいまいとの皆是
云浮止事　音ひ音
あるまで　善光寺
古今無雙の雪地
高き日の
も解集
みや
回禄
利潤我ものとせんと企て内職出店許等我儘勝手も又運拙くして容易に二階我ものとなす能はざるを恨み　御田包そと逃来の者人まち物々を多く平の質素我ものとなす能はざるの糸漬我ものとなす能はざるの酒給菜漬我ものとなす能はざるの又世この如き我ものの心我儘勝手つまるところ　つまるところ　いかなる訴の苦労も金所るまでして好きまるまで我儘おもいまいとの皆是云浮止事　音ひ音あるまで　善光寺古今無雙の雪地高き日の　も解集　みや　回禄

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

又御開帳之事ニ付
小幟ニ而ニ三ケ所ニ而
持参可申候ニ付風ニ
ニ而ニ三ケ所ニ而
ニ而ニ三ケ所ニ而
ニ而ニ三ケ所ニ而



国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

勅額之焉新製御免菓子之圖白フチ字共二紅赤地
淺黄字白等也大キサ如圖厚サ五ト包紙色紫以前之句

月雪や四つ
四ツ目屋製

亦紅摺二シテ

善光寺名ヲかけとイウ
小札ノ銀ノ帯二ハサミ
外二新製頂ク

大サ 色共二如圖袋人也但シ袋ノ模様人者
小幟ホ残リ有ヲ以テ可知價百文二附四包也

東	定額山
善	光寺
南	南命山
無量壽寺	
西	不捨山
淨土寺	
北	北空山
雲上寺	

弘化四未年三月

中野治兵衛様

杉戸町 人左五郎下。
杉戸町 数珠屋 江 印下

形のごとく頼書を以申入候。然ハ
共来る廿三日十六ノ
参例年の通り式の
高弟を以御回向
高量四ツ八十四ツ
十六ノ晩
其用意を

と口演まても評義を極免ひ申候也

壬辰残暑一条

愛玉亦子殊に外ること一日の常ニ関存の一ト間
何事ニ成も造花おはんるを思ひて地袋附の床ゟ
残暑猶一おまも泊生の井罫を幸ひの
吉辰ゟまゝとて模様なけ張なけ聊法も急き
まゝに徐ゟ此ゟ残暑も関ゟ切て古佛
檀ゟ移一ゟ御ゟ座ゟ候ゟ而ゟ床ゟ
座敷の祝ゟとて床ゟ

寄松祝

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

御樂筆多く後小路宰相有長卿 あるん
ともうつもこれ紛迷の仮名なり
ゐ一ひなひなし御くゐ結ゐ
もくゐん
兵衛大工大吉荘五郎女房夕々北西
出店梅笑堂ニアリテ三度食事可知持出運
筈我ゐ時寄たくもまて
ゐ待ゐんと云て遣ゐ
ともゐ留守居もなくて
笑ゐまゐて
神休の加護るかゐ人
永二四我ゐる寄戯まて
我ともたるゐと四のゐ問はゐ
人く新兄合ゐるゐ
為ゐ婦ゐる地震
ゐまゐたるゐ
まゐ
ゐまゐ
和喰我ゐ
お連ゐて
ゐる待ゐはゐ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

而も其のものも名を
於ムメ乾三トリアケバ也 菓子と職人を
志そい道具を何やら
まで家残りその家
ろ我可知や
梅実堂まで参
ら

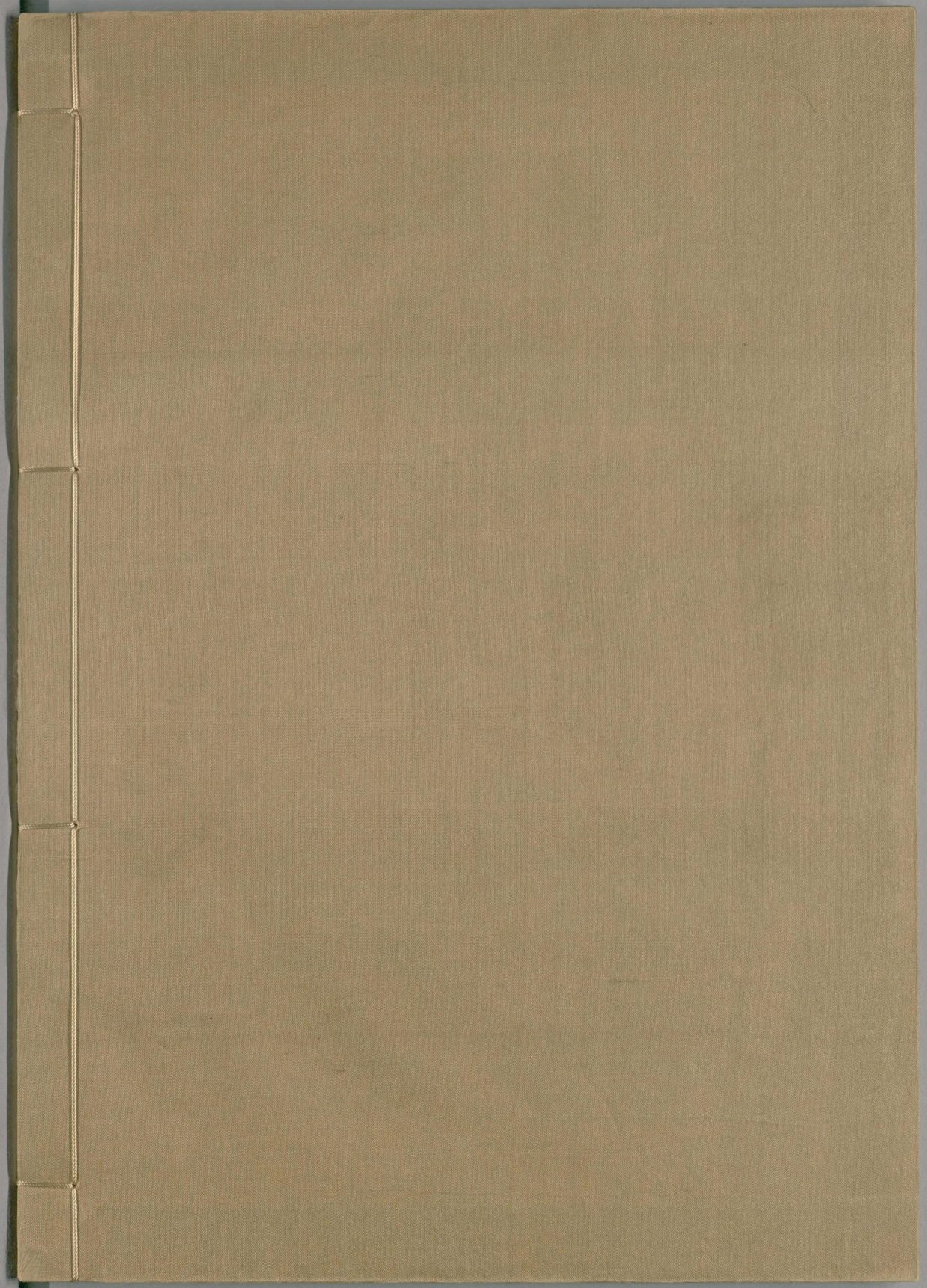
国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

849
55

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用